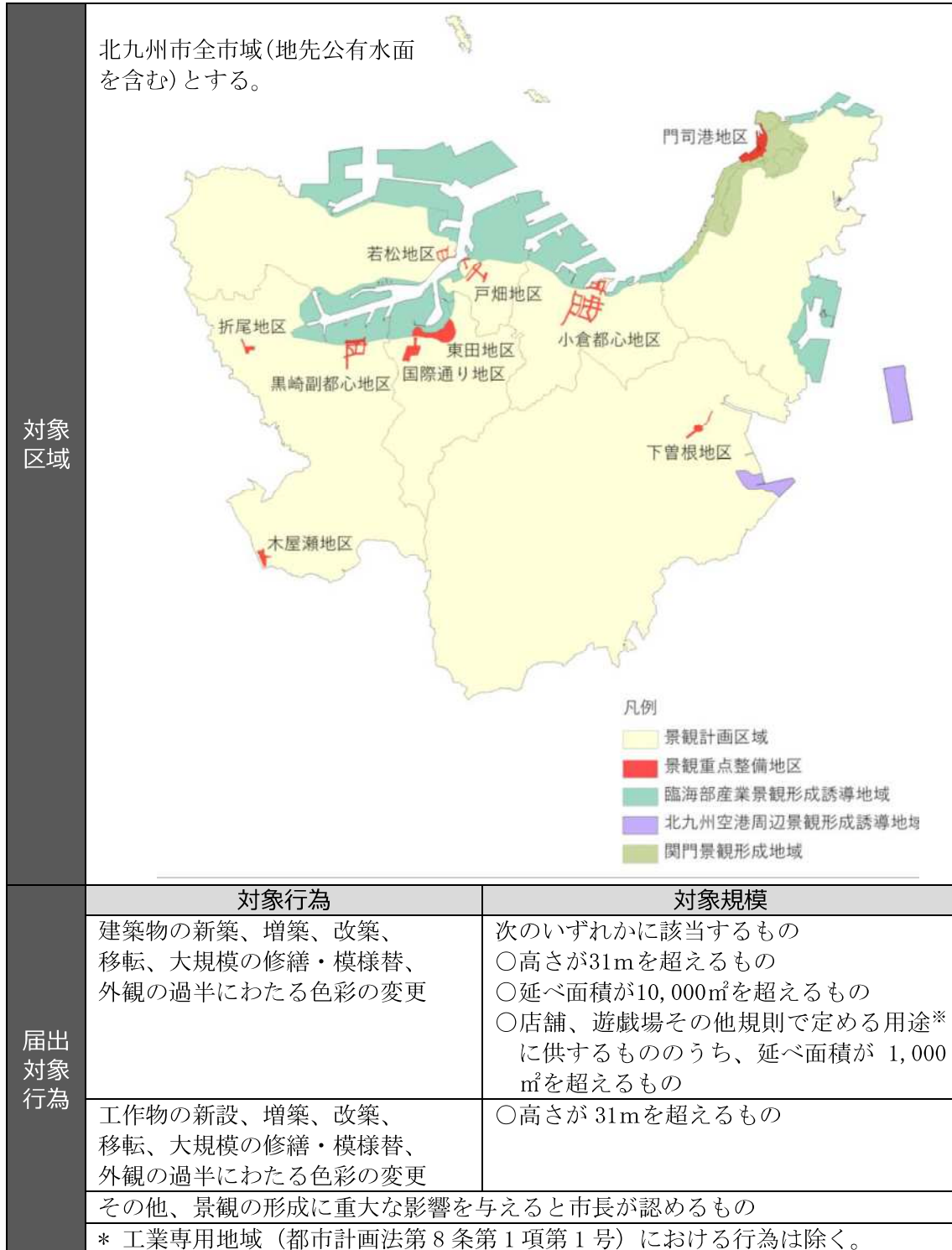


第3章 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項

(景観法第8条第2項第2号)

3-1 景観計画区域における行為の制限等



※北九州市景観法及び北九州市都市景観条例の施行に関する規則第5条
 (1) 劇場、映画館、演芸場、公会堂及び集会場 (2) 展示場及びマーケット (3) ホテル及び旅館 (4) 公衆浴場

- 1章 景観計画の位置づけ
- 2章 景観計画の区域
- 3章 行為の制限
 - 重点
 - 門司港
 - 小倉都心
 - 下曾根
 - 若松
 - 国際通
 - 東田
 - 黒崎副都心
 - 木屋瀬
 - 折尾
 - 戸畑
 - 誘導
 - 臨海
 - 空港
 - 関門
 - 関門
- 4章 屋外広告物の表示等
- 5章 公共施設の整備方針
- 6章 重要建造物の指定方針

◇建築物等の形態意匠に関する行為の制限

表 3-1-ア 景観形成基準(建築物)

項目	景観形成要素	景観形成基準	
共通事項		まちなみや通りの連続性の確保	<input type="checkbox"/> 形態・意匠を協調させるよう努める。
		建築物の魅力向上	<input type="checkbox"/> 建築物全体を統一感のある形態・意匠とし、各景観形成要素が持続可能で周辺景観から突出した印象とならないものとする。
		景観資源との協調	<input type="checkbox"/> 屋根や庇、外壁等のデザインを協調するなど、歴史的建造物等景観資源のあるまちなみとの調和に配慮する。
配置	地域特性への配慮	自然条件を考慮した配置	<input type="checkbox"/> 地形の起伏、既存の樹木や樹林等の保全に努める。
	壁面位置	壁面位置による快適なまちなみ空間の創出	<input type="checkbox"/> 周囲の基調を確認し、壁面線を協調させるよう努める。
高さ	スカイライン	連続性の確保	<input type="checkbox"/> まちなみで構成されるスカイラインの連続性を確保するよう努める。
		突出の低減	<input type="checkbox"/> 山の稜線などの背景やまちなみから突出しない高さとするよう努める。
	眺望の確保	眺望確保	<input type="checkbox"/> 道路や公園等の公共空間から、背景の山の稜線やランドマークが眺望できるよう配慮する。
壁面	形態・意匠	デザインの工夫	<input type="checkbox"/> 建築物単体のバランスに加え、周辺景観の基調と調和する壁面デザインとするよう配慮する。
		アイストップとなる場合の景観配慮	<input type="checkbox"/> 公園や公開空地、交差点等人の往来の多い公共施設等に接する場合は、見え方に配慮した配置、形態、意匠とするよう努める。
		大規模壁面の単調感・圧迫感の低減	<input type="checkbox"/> 開口部などの壁面構成や色彩による分節化等、単調感、圧迫感を低減させる形態、意匠とするよう努める。
	開口部	まちなみと協調した開口部の位置、大きさ	<input type="checkbox"/> まちなみとしての連続性を形成するため、開口部の位置や大きさの協調に配慮する。 <input type="checkbox"/> 窓面を利用した広告は掲出しないよう努める。
	素材	地域の基調を踏まえた素材の使用	<input type="checkbox"/> 周辺景観や地域特性の基調を踏まえた素材を使用するよう努める。 <input type="checkbox"/> 汚れが目立ちにくいもの、退色の少ないもの、耐久性の高いもの、反射光を生じないものを用いる。
	色彩	メインカラー(基調色)	<input type="checkbox"/> 暖色系(R、YR、Y)は彩度6以下、寒色系(R、YR、Y以外)は彩度3以下とする。 <input type="checkbox"/> 周辺景観との調和に努める。 <input type="checkbox"/> 高彩度色や低明度色の使用を避け、落ち着いた色彩を用いるよう努める。 <input type="checkbox"/> 色数は、多用しない。複数色を使用する場合は、色相、明度、彩度の対比が強くないよう努める。 <input type="checkbox"/> グラフィック(イラスト、写真、幾何学模様など)を主体としたデザインは行わないよう努める。
		アクセントカラー(強調色)	<input type="checkbox"/> 見付面積の1/10未満の範囲でアクセントカラーが使用できるものとする。但し、自然素材に彩色を施さず使用する場合はこの限りでない。

項目	景観形成要素	景観形成基準	
屋根・屋上	形態・意匠	眺望への配慮	<input type="checkbox"/> 高い所から見下ろす眺望に対して、屋上や屋根、塔屋等の色彩、素材等の意匠に配慮する。 <input type="checkbox"/> 反射光を生じる素材は使用しないよう努める。
	色彩	基調色	<input type="checkbox"/> 周辺景観との調和に努める。
部分	ベランダ・バルコニー	ベランダ・バルコニーの修景	<input type="checkbox"/> 建築物と一体感のある意匠とし、壁面から突出した形態や強調する色彩の使用はしないよう努める。
	屋外階段	屋外階段の修景	<input type="checkbox"/> 道路や公園等の公共空間から見えない位置に設置するよう努める。 (推奨例：見える位置に設置する場合は、ルーバーで覆う、建築物と同一の色調とする等建築物本体と調和するなど。)
	低層部	連続性の確保	<input type="checkbox"/> 統一感のあるまちなみをつくるため、歩行者の視線レベルの意匠を周辺環境と協調させるよう努める。 (推奨例：パイプシャッター等の利用による透過性の確保をするなど。)
		遮蔽性と閉鎖感の低減	
建築設備等	屋上の設備	屋上設備等の修景	<input type="checkbox"/> 道路や公園等の公共空間から、容易に見える位置に設置しないよう努める。 (推奨例：見える場合は、ルーバーで覆うなど。)
	壁面の設備	配管・ダクト等の修景	<input type="checkbox"/> 道路や公園等の公共空間に面する外壁に露出させないよう努める。 (推奨例：露出する場合は、壁面と同一の色調とする等建築物全体と調和するなど。)
	テレビ・携帯アンテナ等	テレビ・携帯アンテナ等の修景	
緑化	敷地	敷地の緑化	<input type="checkbox"/> まちなみの潤いや良好な景観のため、樹木等による緑化に努める。 (推奨例：まちなみや隣地に生垣や植栽等が連続している場合は、その連続性を保つよう、緑化する。ビル等屋上面積の広い建築物は、見下ろす眺望を踏まえた屋上緑化をするなど。)
	屋根・屋上	屋根・屋上の緑化	

項目	景観形成要素	景観形成基準	
外構・その他施設	敷地・アプローチ等	まちなみとの一体感や連続性のある空間づくり	□まちなみや隣地との一体感や連続性に配慮する。 (推奨例：柵やフェンス等は、高さや構造、面積などを工夫し、圧迫感がなく、透過性があるものとするなど)
	駐車場	平面式・機械式・立体式駐車場の位置、出入口、外観等の修景	□主要な道路や公園等の公共空間に面して設けないよう努める。 (推奨例：設ける場合は、舗装の色や素材、植樹等による修景を行う等、周囲からの見え方に配慮する。建築物本体と形態や色彩、外壁素材等を一体的なデザインとするなど。)
	倉庫・駐輪場・ゴミ置場等の施設	倉庫、駐輪場、ゴミ置場等の修景	□道路や公園等の公共空間から見えにくい場所に設けるよう努める。 (推奨例：建築物等と調和する形態や色彩とする。緑化など。)
	擁壁・法面	圧迫感のない構造	□段切りや後退、緩勾配の採用等、圧迫感を与えない構造とするよう努める。
夜間景観	照明	魅力的な夜間景観の創出	□施設のライトアップを行う場合は、地域の特性に応じた魅力的な演出に努める。
	光害	光害(ネオン点滅・グレア等)の抑制	□点滅や過度に発光するものや、動きのある照明(回転灯、サーチライト)等の機器は、使用しないよう努める。

表 3-1-イ 景観形成基準(工作物)

項目	景観形成要素	景観形成基準
共通事項	位置・形態	□建築物や周辺環境と調和する位置・形態とする。
	色彩	□建築物や周辺環境と調和する色彩とする。
	材質	□材質は、汚れが目立たず、退色の少ない材料を用いるように努める。
煙突、鉄筋コンクリートの柱等	配置	□連続して設置する場合は、尾根線に沿った配置を避ける。
	緑化	□足元や敷地の周囲などの緑化に努める。
擁壁	圧迫感のない構造	□自然石の使用や化粧型枠仕上げなど、周辺との景観調和に努める。
携帯基地局アンテナ	修景	□主要な道路からできるだけ見えない位置に配置する。若しくは、外壁又は屋根と同色で着色するなど、目立たないよう努める。

※表 3-1-ア、イの基準に適合しない場合であっても、北九州市景観審議会等の意見聴取をした上、良好な景観形成に支障がないと判断されるものについては、基準外とすることができる。

景観重点整備地区、臨海部景観形成誘導地域、北九州空港周辺景観形成誘導地域、関門景観形成地域においても同様。